

翔 たけ

第21号

平成25年3月1日

発行
一般財団法人
小笠原アカデミー
教育振興財団

〒040-0015
函館市梁川町10-25

テオー
デパート内

☎(0138)
32-0001(代)



「かなしみ」の共有

財団法人函館市文化・スポーツ振興財団

専務理事 森 武

(1)

翔 た け

もう四年も前のことになりました。教員を退職してから二ヶ月後、高体連支部大会の会場を回って最後に務めた高校の子供達を応援したのですが、その帰り道、「つまり、俺は総ての負け試合に立ち会った」という呟きが口から漏れました。普段の頑張りがよく分かる試合ばかりでしたが、どれもこれも惜敗。優勝の前評判の高かった競技も結果は準優勝でしたから、結局、子供達の悔し涙ばかりを目に焼き付けての帰宅でした。

自分の呟きを聞いてややとしてから、今日はいいい日だったという考えが浮かんできました。負け試合に立ち会ったということとは、つまり、子供達の「かなしみ」を共有できたということだと思います。成功と一緒に喜び合うことは大事です。しかし、教師の、そして親もそうです。子供達の「かなしみ」を共有することは、もともと大事な仕事です。そこに思いいたると、子供達の泣き顔の一つ一つがとても清々しく甦ってきました。

「かなしみ」の共有ということでは、何ととっても、もうじき三度目の春を迎える三・一一の大震災のことを考えます。

衝撃の日から二ヶ月半後、出張先の盛岡から足をのばして宮古市と山田町を訪れました。「重機が足りない」という言葉が真っ先に浮かびました。廃墟となった町をグルッと見渡しても、動いている重機はほんの数台しかないのです。壁のなくなった家々には、「解体OK」とか「解体をお願いします」とペンキで書かれた板が貼られていました。が、現実には置き去りにされた感がありました。

帰宅してすぐ、政府に一刻も速い具体的行動を求めた文を書いて新聞の読者欄に投稿しました。しかし、政府が瓦礫処理の重大性を問題にしはじめたのは、それから一年も経ってからです。私には分からない難しいことが政治にはあるのでしょうか、何とも対応の遅さに歯ざりをする思いでした。

「翔たけ」15号から20号までを拝見いたしました。奨学生の記事を読んでいて思ったのは、いろいろな経験を経てきた人達が、奨学金に応援されて希望を持って勉強しているということでした。最後になりましたが、若者達の人生設計を応援されている一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団のますますのご発展を心から祈念申し上げます。



新たなスタートの年
今一度、

国家百年の大計の人づくりを

一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団理事長
「小さな親切」運動函館支部支部長

小笠原孝

「教育再生実行会議」

道徳の教科化

子供の規範意識を高めていじめを防ぐ道徳を正式教科にするよう求めたその提言を受け、文部科学省は道徳の教科化の検討を開始したとの記事が各紙に一齐に取り上げられている。

振り返ってみて最近の世相を反映し、各種奨学金の返済滞納の問題、給食費未払い問題等日本人としての当り前の常識がどうなってしまったのか。私共当り前の人間として、決められた約束ことは必ず守るということが、「当り前のこと」が何故出来ていないのか。

沢山の社員を採用している企業人としても物事の道理をキチッと次世代の人間に受け継がせることが如何に大事か…

終戦後、敗戦によりその後の

GHQの教育政策により日本古来の教育の基本が変にねじ曲げられてしまい、一緒にたに道徳についても置き忘れられたようにも感じられ情けなく思う昨今でもある。

先日NHKの大河ドラマ「八重の桜」で旧会津藩の質実剛健質素儉約、何よりも「ならぬものはならぬ」の格言に感銘を受けたのは私一人ではないと思う。

日本にも儒教の精神が入り、親孝行、夫婦相和、兄弟仲良しは私共の世代では当然と思っっているが、日の丸掲揚の問題でもごく最近まで学校内の論争の的になりやと法整備によって祭日等には掲揚することに決まり、学校行事の一番大事な入学式にも掲げることすら憚れる時もある

ったことを非常に残念に思っていたこともある。

最近、世の中の変遷は目まぐるしく、世の中の変化について行けないとボヤクのは私だけではないと思う。

特にICT(情報社会)の中では携帯電話が固定電話の契約数を抜き、モバイルの世界でも三歳児の幼児が 아이폰 を使う時代とのこと。

現在、スマートフォンが携帯電話の主流になっており、小型端末がコンピューターの感すらある時代。

グローバル時代に世界と競争しなければならぬ時、今こそ伝統を新しいセンスで引き継ぎ世界に伍した挑戦をしなければならぬ大切な時でもあるだろうと我々は心して努力しなければならぬと思う昨今でもある。私は 今、中、という言葉が好きである。

今日をしっかりと見つめ、過去(昨日)の足跡を反省、そして明日の未来を見据えている未来思考こそ重、且つ大であろう。今、中とは「昨日」と「明日」

の真中(現在)と思う。

そういう意味からも日本社会の素晴らしい家庭、社会の「絆」をより大事にしていくべきで、家庭と社会が健全なことは国家の厚い基盤に培われていることにもなるであろう。

そういう意味合いからも新たなスタートの一步である。

今一度、国家百年の大計の人づくりを見つめ直して見たいものである。

小笠原アカデミー奨学財団も昨年、新法律の改正により一般財団法人として呼称も「小笠原アカデミー教育振興財団」と衣替えをし、事業も奨学金貸与プラス教育振興に対する設備等の助成の二本柱としてスタートすることが出来た。

教育こそ国家百年の大計に少しでもお役にたてればと願っている所でもある。

いつの世も 正しく道徳

変わりなき

夢抱き 決意新たに歩む道
父母の 思いと胸に 築立つ春

壺 備 けい けい

一般財団法人 小笠原アカデミー教育振興財団

函館市梁川町10-25 テーオーデパート内 ☎32-0001

諸君の可能性を咲かせます 21世紀を担う向学心に燃える若人を集う

平成二十五年年度奨学生募集要項

〈資格〉

- ・原則として、道南地方の住民の子女であること。
- ・大学又は大学院、専門学校又は専修学校、高等学校に在学する者。
- ・向学心に富み、かつ修業の見込みがあること。
- ・経済的な理由により、就学困難な事情があること。
- ・将来、国家及び社会に役立つと認められる者。

〈貸与額（月額）〉

- ・大学又は大学院 二万五千円
- ・専門学校又は専修学校、短大 二万円
- ・高等学校 一万五千円

※奨学金は原則として、六ヶ月分を一括貸与する。

〈年二回〉

〈返 還〉

- ・奨学金の貸与が終了した日から一年を経過した日以後、貸与を受けた年数の三倍の期間内に返還する。
- ・返還方法は、年賦、半年賦、月賦、その他の方法による。

〈申込方法〉

- ・所定の用紙（在学学校又は財団事務局に申請）に必要事項を記載し、必要書類添付の上、在学学校を通して申し込む。

申込期間

- ・平成二十五年四月一日～平成二十五年五月末日

※詳しい問い合わせは当財団事務局へ

☎32-0001

新しい施策

教育機関等への助成要項

〈助成対象〉

- ・学校等の教育機関及び地域社会の教育の振興に関わる機関

〈申し込み方法〉

- ・助成額は1案件につき事業費の1/2とし、上限を三十万円とする。

- ・申請書の様式はとくに問わないが左記事項を明記のこと

- ① 事業名称
- ② 事業及び費用の概要
- ③ 事業の収支計画書

〈第一期申込期限〉

- ・平成二十五年五月三十一日

〈例1〉

- ① ○○小学校 □□部 全国大会出場の場合

- ② ○○小学校 □□部 全国大会（東京都）への出場が決定しましたので、旅費等の一部を助成して頂き度く。

- ③ ※かかる費用の内訳等を詳しく記入のこと

〈例2〉

- ① ○○中学校の図書充実

- ② ○○中学校の図書室にある図書を充実する為の図書購入費用の一部を助成して頂き度く。

- ③ ※かかる費用の内訳等を詳しく記入のこと

申込期間

- ・平成二十五年四月一日～平成二十五年五月末日

※詳しい問い合わせは当財団事務局へ

☎32-0001

一般財団法人 小笠原アカデミー教育振興財団

平成24年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	住 所	備 考
顧問	小笠原 金 悦	函館市松川町45番6号	
代表理事(理事長)	小笠原 孝	函館市松陰町26番17号	
副 理 事 長	小笠原 弘	江差町字南丘7の222	
業務執行理事(事務局長)	小笠原 潔	函館市松川町44番2号	
理 事	野 又 肇	函館市柏木町7番28号	
理 事	安 島 進	函館市柏木町4番20号	
理 事	橋 本 守	北斗市昭和2丁目10番15号	
理 事	川内谷 健三郎	函館市上野町11番11号	
理 事	村 田 亮 二	函館市大森町13番6号	
理 事	竹 内 行 雄	函館市美原2丁目12番8号	
監 事	齊 藤 一 雄	函館市港町1丁目36番6号	
監 事	平 野 利 明	函館市美原4丁目12番5号	

平成24年度 評議員名簿

氏 名	住 所	備 考
小笠原 正	函館市川原町21番4号	
小笠原 康 正	函館市松川町45番6号	
齊 藤 良 昭	函館市美原2丁目9番2号	
丹 昭 子	札幌市中央区北4西19	
近 野 功	函館市日吉町3丁目3番21号	
庄 司 澄 枝	函館市日乃出町28番2号	
羽根田 茂 信	函館市日吉町1丁目26番31号	
小笠原 勇 人	函館市湯川3丁目26番3号	
野 村 辰 男	函館市大森町8番4号	
成 田 豊	函館市深堀町24番21号	
野 口 博 敏	函館市白鳥町6番21号	

事務局 函館市梁川町10番25号 (株)テーオー小笠原デパート内 一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団

編集後記

事務局長を拝命してから、半年と少し経過いたしましたが残念ながらもまだまだ前任の足元にも及ばない活動しかできていません。

国の公益法人制度改革により新体制に移行したことを受け新たに、「教育機関等への助成事業」を行えるようにいたしました。が、当方のPR不足等により存在を知らない方々が多く、実績がまだございません。これから「教育機関等への助成事業」を大々的に推し進めていこうと思っております。

これからも当財団の趣旨をご理解の上温かいご支援を頂きたいと心からお願ひ申し上げます。



事務局長

小笠原 潔